

# 創新

会報第28号(議会報告)

江田島市議会議員  
胡子まさのぶ



「あいさつ」

はやくも平成28年の折り返しを迎え、私の政治活動も6月から14年目に入りました。

私の目標は、江田島市を『行ってみたい、住んでみたい、恵み多き島』にすることです。

これまで「恵み多き島、えたじま」について考え、活動してまいりました。このことについてはブログ（インターネットでの日記）で掲載してしますので、是非、ご覧ください。

地域資源が豊富で、島湾の中心に位置し、広島市・呉市に近い地の利を生かした『島づくり』に取り組んでまいります。

## 大橋高校サッカー部 修道高校と交流

今年度から県立大橋高校にサッカー部ができました。現在、6名の部員がいます。

まだ11人いないので、対外試合はできませんが、5月15日に修道高校（広島市中区）の人工芝グラウンドで合同練習と練習試合に参加しました。

大橋高校サッカー部1年生6名が修道生とチームになって広島朝鮮学園サッカー部と練習試合。（左写真）



両校サッカー部の交流が続く、修道生にも江田島市に来てもらい、自然豊かな環境に触れて『江田島ファン』になって欲しい。



6月18日、大橋高校の教員・生徒・PTA・育てる会と地域ボランティア等約300人が日本サッカー協会から無償提供の天然芝約3万株をグラウンドに植えしました。（右写真）

順調にいけば9月には利用可能となり、地域の方々も利用できるそうです。『地域の宝』として引き続き応援していきます。

## 6月定例会一般質問

(1) 広域連携について

① 広島市との連携  
② 広域連携について

【胡子】広島市と連携協約を締結したが、実施主体である広島市に本市が提言できる具体的な施策及び今年度の事業はあるか。

【市長】提案した施策として、「公共交通網の充実強化に向けた検討」、「職員共同研修の実施」、「みなとオアシスのにぎわいづくり」などが盛り込まれています。広域連携にふさわしい案件が生じた際は積極的に提案していきます。

【胡子】平成26年に広島市と締結した海生交流協定は、当時の企画部長答弁でこの連携協約に溶け込むとあつたが、市民に分かりやすく説明してください。【企画部長】連携協約

は24市町の広域的なもので、交流協定は広島市との2市間の柔軟性のあるものです。

【胡子】連携協約では広島市との2市間で既に取り組んでいる生活航路補助（三高航路）が盛り込まれている。少子高齢で利用者減による単なる赤字補てんの連携でなく、24市町の市民・町民が江田島市に来る交通手段としての連携協約と思う。

【市長】公式の議論には挙がっていないが、広島市長とはいろいろ話しています。民間事業者が（将来的に）航路維持が難しいことを伝えたところ、広島市長が中国運輸局に新造船建造について公的な支援ができる仕組みがないか申し入れて

聞いています。（現在進行中です）

【胡子】連携のなかでお互いの市町を知るために人事交流が必要。具体的な取組は。

【企画部長】具体案は今ないが、連携協定に圏域内職員人事交流研修事業があり、これから取り組めます。

【胡子】江田島市は限られた職員数。江田島市にとって必要な分野に人材豊富な広島市との連携を含め、切磋琢磨してください。広島広域都市圏発展ビジョン（広域連携）

は200万人維持という目標を掲げてスタートしたばかり。江田島市の総合計画や総合戦略にとっても不可欠な連携であり、一構成員として積極的に取り組んでいただきたい。

② 呉市との今後の連携について

【胡子】呉市は4月に中核都市となり、連携中核都市圏を視野に入れている。今後の連携

## 連携中核都市圏協議へ 呉市 4市5町と形成目指す

【市長】古くから市民生活における相互の往来が活発であり、医療やごみ処理等の行政面でも連携しています。呉市を中心とした圏域の形成に向けた協議は始まっていないが、積極的に取り組み、市民生活の満足度の向上や交流促進を図りたい。

【胡子】広島市の連携中核都市圏に呉市を中心とする都市圏が含まれる。2つの中心都市（広島と呉）の交通整理はどうか。

【企画部長】広島は大きなもの（山口県の市町を含む24市町）、呉は小さい自由度が大きいエリア。広島は山口県までエリアがあり、呉より東側との繋がりがなく、呉を中核市とした都市圏を構成することと効果的な連携の可能性があると呉市は考えている。江田島市としても一緒にやっていきたいと考えています。

【胡子】呉市と消防行政の連携を検討できないか。（消防行政研究会の立ち上げ）

4月に中核都市へ移行した呉市が「連携中核都市圏」の形成に向け、周辺市町の協力を始め、有識者の懇話会も30日の市議会総務委員会、説明した。想定する「広島中央地域連携中核都市圏」（仮称）は、呉市、竹原市、三原市、東広島市、江田島市、府中町、海田町、熊野町、坂町、大崎上原町をエリアとする。人口規模は約70万人。

【胡子】国・県等へ要望・提案活動をしている。津久茂架橋構想及び津久茂架橋（仮称）の具現化は重要課題。今後の要望活動をどう展開していくのか。

【市長】毎年、広島県島嶼会（島嶼会）や広島

連携中核都市圏は、人口の減少に抑止めをかけるため、中心市と周辺自治体が協力を結ぶ、活性化に取り組み、仕組み、業内と連携する。広島市と三原市をそれぞれ中心市とする同様の枠組みがある。

【胡子】2つの架橋構想について

【胡子】広島を中心とした24市町の連携では、江田島市は中心的な位置にある。広島湾架橋は高いハードルですが、津久茂架橋は江田島市が「Yの字」という特殊な地形であり、4町を循環するためには必要です。音戸・倉橋を

胡子雅信後援会

2~3名様から出張報告します。お気軽にご連絡下さい。

住所：〒737-2213 江田島市大柿町大原5563-4  
 電話&ファックス：0823-57-2184  
 E-MAIL：ebisu7@nifty.com  
 ブログ：http://mebisu924.cocolog-nifty.com/etajima/

# これまでの提言で実現した主なこと

## 【教育】

- 子ども議会（市内小中学生対象）  
H21年3月定例会で提言 ⇒ H22・H23年2月に実施
- H27年12月定例会で**子ども議会の再開**と**少年議会**を提案
- 大柿高校への支援拡充  
H27年6月定例会で提案（公営塾など）  
⇒ H28年6月から**公営塾「おおがき暁塾」**スタート



## 【行財政改革】

- 一般職の任期付職員の採用等に関する条例（H23年9月定例会で条例化）

## 【議会改革・情報公開】

- 議会基本条例（H26年4月1日施行）  
副議長及び議会改革特別委員長として議会基本条例に取り組む ⇒ 実現
- 議会報告会  
H25年 5月 議会改革特別委員会報告会  
H26年11月 第1回報告会開催  
H27年 7月 第2回報告会開催  
H28年 7月 第3回報告会開催（予定）



## 【交通網の充実】

- 深江バス路線の延長（H21年4月1日から「深江～須野本」新設）
- 市営船の公設民営化（H27年10月から指定管理者制度（瀬戸内シーライン）導入）  
H18年12月定例会から**民間委託**を提言し、約8年9ヶ月後に実現  
**指定管理者選定委員会の外部委員任命及び結果公表**を提言 ⇒ 実現

## 【市民生活・まちづくり】

- 地域おこし協力隊（H26年12月定例会で提言）⇒ 実現（H28年度、4名着任）
- まちづくり出前講座  
H21年12月定例会で提案（消防の出前講座はあった）⇒ H24年4月からスタート
- 「資源ごみ（空き缶など）」持ち去り禁止（H25年9月で条例改正提言、12月実現）  
家庭から排出された【ごみステーション】の資源ごみは、「所有権は市に帰属」し、**民間事業者**が無断で持ち帰ることを禁止。

# 他地域との連携 ～ ネットワークづくり

- 広島クラブ 運営委員  
広島県市町議会議員及び県議の政策研究会
- 広域連携ローカルリンク広島西・山口東  
広島広域都市圏発展ビジョンの勉強会
- くれ創生塾 理事（若手経営者との勉強会）
- NPO法人ひろしま創発塾 理事  
行政マン・民間人・議員が地方自治を学ぶ  
←【模擬議会inえたじま】（左写真）（平成24年2月開催）
- 全国若手市議会議員の会 など



【胡子】千葉県野田市が平成21年に全国で初めて公契約条例を制定した。全国建設労働組合総連合会の調べでは今年4月現在、公契約条例を施行する自治体は17市区。本市として公契約条例の制定についてどう考えるか。

【市長】建設工事入札の「最低制限価格制度」や「総合評価落札方式」の試行導入など各種入札制度の有効な活用を図っています。公契約条例制定については、江田島市議会も公契約法制定を求める意見書を採用するなど、国に法制化を求める動きがあることや、制定済みの自治体はまだ少数であることから、今後、調査

研究を行います。【胡子】これまで市に對して公契約条例制定の陳情はあったか。

【総務部長】陳情はありません。

【胡子】公契約条例の背景は官製ワーキングプア。江田島市において公共施設の改修・耐震・新築工事等を発注しているところであり、受注者や下請け企業が適正な賃金を支払っていないか確認できるか。

【総務部長】労働法規（最低賃金法）に定められた適正な賃金を支払っているかの裏付資料までは調べていません。

【胡子】野田市では国の公契約に関する法がないなか条例で支払賃金について報告を求めるのは大きい。自治体の使命は地方自治法にある「住民の福祉の増進を図る」であり、人間らしい労働や生活を保障することも自治体の仕事とみれば条例整備も必要。総務常任委員会も調査研究する予定であり、市としても審議会設置等の取組をお願いします。

## (3) 人工芝グラウンド等の検討状況について

【胡子】昨年6月定例会で**江田島市総合運動公園**（左写真、大柿町飛渡瀬）グラウンド芝生化等の提言に對し、早急に検討するとおっしゃった。また、子育て世代が遊べる空間の整備についても平成26・27年度の公園等の見直しに係る調査および検討業務によってどうであったか。

【教育長】スポーツ推進計画策定の前提



で「スポーツに関するアンケート」を実施し、「既存のグラウンドを改修して人工芝を整備することについての回答は、「わからない」が4割、「整備して欲しい」が1割、「整備する必要はない」が3割。アンケート結果を踏まえ、人工芝の必要性について、スポーツ推進計画審議会において検討しています。

「子育て世代が遊べる空間の整備」については、「公園等に関する市民アンケート」で運動公園への遊具整備の要望がありました。平成27年度に作成した公園等の管理・活用計画の素案では、レクリエーション機能の充実を図ることを重点的取り組みの一つとしています。

できるだけ早期に、公園等の管理・活用計画を取りまとめ、計画的な整備に努めます。

【胡子】人工芝に関する設置内容はどうだったか。

【教育次長】人工芝グラウンド1箇所を整備費約1億5千万円の事業費が必要。プロスポーツ等の利用が見込まれ、交流によってスポーツ水準の向上が期待できるといいます。

【胡子】子ども達が安心して遊べる空間、大雨が降ってもすぐ使えるということを入れたら結果は違ったと思う。

一方、昨年6月に財源として**合併特例債・スポーツ振興くじ補助金制度**の活用を話したが調査研究したか。

【教育次長】具体的に検討はしていません。アンケート結果が1割（人工芝整備をしてほしい）であったので教育委員会として優先順位は下がった。

交流人口を増やす手段として継続検討します。

【胡子】物事を進めていくにはタイミング。財源として活用できる合併特例債の発行可能期限も平成31年度と残りわずかな時間であり、交流人口増加のツールとして、そして子育て世代から高齢者の方々にまで幅広く利用できる「**縁を結ぶ**」場」として総合運動公園の多目的グラウンド人工芝化および**子ども広場**（右写真）再構築の検討をお願いします。

